

海外アカデミック・ディスカッション	
中国都市部におけるボランティア活動研究への方法論的示唆	
薛 迪	人間発達科学専攻
期間	2009年7月11日～2009年7月31日
場所	中国・北京
研修交流プログラム	社会科学研究方法サマー課程
施設	北京大学人口研究所

【内容報告】

1. 研究の構想と進捗状況

中国では、市場経済への体制転換の中、計画経済下で構築された医療、福祉、年金などの公共政策が殆ど崩壊してしまった。体制転換により引き起こされた雇用の不安定、「一人っ子政策」の結果としての高齢者の急増などによって、福祉政策の再編と推進が緊急に求められている。こうした背景の下で、八十年代から「社区福祉」を中心とした社会福祉制度の改革を契機として、ボランティア、NPOなどの活動を行う者は、地域福祉を推進する新たな役割を与えられ、大きな期待が寄せられている。博士論文の研究では、人口高齢化が深刻化しつつある中国都市部における社区福祉サービスとボランティア活動のあり方について、その文化的・政治的特質と展開可能性について考察することを目的としている。具体的には、中国瀋陽市・北京市ですでに実施した質問紙調査およびインタビュー調査に基づき、社区福祉・ボランティア活動の実態・特質・評価および高齢者扶養・介護に対する意識を考察してゆく。併せて、欧米や日本の福祉における市民参画やボランティアに関する議論が、社会的風土が異なる中国社会にはどこまで適用可能かも考察したい。

前述した瀋陽市・北京市の調査データは、構造化質問紙 1325 部、インタビュー調査 27 人分を得ている。現在はこの量的・質的データの分析を進めつつ、博士論文の構想を具体化しているところである。

2. 北京大学人口研究所・社会科学研究方法サマー課程の概況

現在進めつつあるデータ分析と博論の執筆にあたっては、中国における社区福祉、ボランティア・NPO活動の先行研究のレビュー、比較社会学の研究手法・社会科学統計法の応用が不可欠である。このため、平成 21 年度大学院教育支援プログラム「日本文

化研究の国際的情報伝達スキルの育成」—「海外アカデミック・ディスカッション」の支援をいただき、北京市に滞在できたことに、心より感謝を申し上げる。

今回報告者が参加したプログラムは、北京大学人口研究所が主催した「社会科学研究方法サマー課程」—現在中国国内社会学学科で最も影響力を持つサマー課程である。一流の教授が講師となり、先端的な英文教材を使用して、社会科学設計と研究方法、応用線形回帰模型、定性（質的）研究方法の課程を学んだ。また、北京大学人口研究所、中国人口学会、国連人口基金の共催する「第五回中国人口学家前沿論壇（フォーラム）」に、社会学領域の専門家、学者、政府官僚とサマースクールの学生は共に参加した。特に研究方法の応用に関する交流、関連分野における最新の研究成果を吸収しつつ、中国社会学界の先端的研究者及び専門家と交流することもできた。

3. サマー課程参加の成果と研究の展望

今回のサマー課程を通して、量的研究と質的研究の相互補完的な特質を理解しつつ、社会科学設計する手順や全体構想の立て方を具体例に即して確認することができた。特に、博論の中心テーマであるボランティア活動の実情やこれを支える意識は、それぞれの社会の歴史的・文化的特質と強く結びついているため、日本や欧米における先行研究の方法論や知見をそのまま当てはめることが困難な場合がある。今回のサマー課程への参加と、北京大学滞在中の文献収集により、博論のまとめ方の方向性について、重要な示唆を得ることができた。

今後は、すでに収集したボランティア活動と社区福祉に関する量的データについては、応用線形回帰模型の原理に基づき、分散分析・重回帰分析法を用いて分析を進めていく。一方、質的データについては、比較社会学の視点も踏まえ、キーワード抽出法

を用いて分析し、中国の歴史社会的条件との関連でボランティア活動従事者の意識要因に関する考察を深めていく予定である。今回のサマー課程では、近年の中国におけるドラスティックな社会変動を背景として、社会科学的研究に政策的貢献が求められていることを痛感した。中国のボランティア研究は近年盛んになりつつあるとはいえ、マクロ要因である政治・経済・文化的動向と、ミクロレベルのボランティアたちの価値意識とを関連づけて考察する試みは

これまでほとんどなく、この点に注目し、量的研究と質的研究の成果を統合する本研究は独自の貢献ができると思われる。

今後、これらの研究成果を日本社会学会年度大会で口頭報告し（10月）、日本NPO学会「ノンプロフィット・レビュー」（11月）、日中社会学会「日中社会科学研究」（12月）などの学会誌に論文投稿する予定である。最終的に、これらの学会誌論文をもとに、学位論文を完成させたい。

せつ てき／お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 人間発達科学専攻

【指導教員のコメント】

薛さんは、博士前期課程から中国都市部の福祉とその主要な担い手であるボランティアの活動・価値意識に焦点を当て、研究を進めてきた。近年の中国都市部では、改革開放政策のもと、従来の単位福祉が崩壊し、社区（コミュニティ）に新たな福祉の受け皿を求めようとしている。このため、福祉の担い手であるNPOやボランティアへの関心は高まっているものの、その研究成果はいまだ実態把握にとどまるものが主流である。また、日本や英語圏の先行研究は重要な参考文献になるとはいえ、ボランティアの概念やボランティア活動に従事する人びとの動機や意識には大きな隔たりがあり、研究の方向性に悩むこともあった。

今回、JCSの研究助成を得て北京大学人口研究所主催の社会科学方法サマー課程に参加でき、中国における先端的な当該領域研究者との交流が得られたことは、今後の彼女の研究展開に大いにプラスになるであろう。また研究方法に関しても、中国の歴史や文化と結びついた研究を事例としつつ学ぶことができたために、たいへん有益であったという。

今後は今回の成果を活かしつつ、理論的に水準が高く、政策的にも意義ある提案を含む博士論文を完成されるであろうと期待している。

（お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 教授 藤崎 宏子）